

今日では以前と違い、利用できる制度や事業所の数も増えてきています。小児を見てくれる訪問看護ステーションや、医療ニーズの高い方々が安心して利用できるように、福祉サービス事業所でも看護師を十分配置して取り組み始めています。少しずつではありますが、地域で「ブツウ」に暮らしていくため



暮らしを創るイメージで……

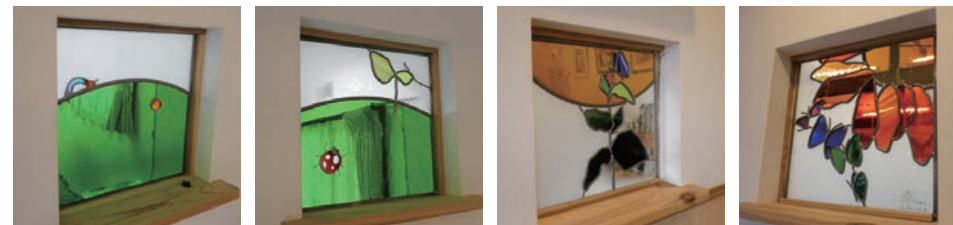
活用し利用していただき、まだまだ十分な制度も事業所も整っていない部分を創り上げることが、小さなたねの役割であると考えています。ですから、何もないところから創り出していく発想とチャレンジが必要です。「復興」の道と同じ年月を重ねつつ、さらなる取り組みに歩み出して行きたいと思えます。

東日本大震災・原発事故から三年、誰も経験したことのない「復興」の道のりを、私たちの国は歩んでいます。地域生活ケアセンター小さなたねも、三度目の春を迎えようとしています。医療ニーズのある人たちとその家族が、地域で暮らしやすくなるために必要な支援を創るため、この場所で、この人たちと共に、さらに道を切り拓いて歩んで行きたいと心から思っています。

の条件が整いつつあります。これまで、この通信で重い障がいをもつ人々の教育・労働・住居などについて語ってきました。それは、受けるべき権利を持ちながらも、未熟な社会や制度の中で声をあげることもできず、ひたむきに生きるその姿を目の当たりして、そこで声を上げる必要を感じてきたからです。地域サービスの中で、他で利用できることはそれを十分に活用し利用していただき、まだまだ十分な制度も事業所も整っていない部分を創り上げることが、小さなたねの役割であると考えています。ですから、何もないところから創り出していく発想とチャレンジが必要です。

三度目の春

所長 水野 英尚



小さなたねの物語が描かれたステンドグラス（ガラスアート TAKAMI 製作・寄贈）

たねナースのつばやき

3月といえば、卒園・卒業のシーズン。小さなたねの子どもたちの中にも、この3月に卒園・卒業を迎える方がおられます。これから新しい世界へ羽ばたいていく皆さんへ、エールを贈ります。

ここで、2014年人気の卒業ソングランキングをご紹介します。

第1位『3月9日』（レミオロメン）

第2位『YELL』（いきものがかり）

第3位『旅立ちの日に』（合唱曲）

私の子どもの頃は『贈る言葉』（海援隊）だったと……。時代を感じます。

（西嶋）



卒業証書



医療法人にのさかクリニック

地域生活ケアセンター 小さなたね

〒814-0172 福岡市早良区梅林 6-23-3

電話 092-874-3051 FAX 092-874-3052

E-mail: chisanatanetane@tune.ocn.jp

ブログ: <http://chisanatanetane.blog.ocn.ne.jp/blog/>

後記

6年前、特別支援学校への入学を控え、たまたま出かけた近所の大型店では新入学用品フェアの最中。「祝入学」の札にずらりと並ぶ小学校名に、息子の行く学校はない。仕方ないよね。色々な思いをおさめ、静かに迎えた入学式で、PTA会長が「ようこそ」と式辞をくれた。そして担任やバス介助の先生方から「待ってましたよ」の声。その歓迎に、私は実は戸惑っていた。「そうなの?」。親の私こそが作っていたバリア。息子は学校とバスが大好きになり、私もいま新生入生を心待ちにしている。（E）

オンリーワンとナンバーワン

冬季オリンピックがロシアのソチで開催され、日本人のメダルへの期待と共に、深夜から明け方までテレビにきぎ付けとなっていた方も少なくないと思います。オリンピックは、各国のトップアスリートたちが、力の限界に挑み競い合うからこそ、人々を感動させる名場面が生まれます。それはパラリンピックとて同じなのですが、テレビ各局はなかなか報道してくれないのが残念です。

スポーツの祭典オリンピックは、力と技がぶつかり合い、時には闘志をむき出しにして挑み、一等賞のメダルを目指すわけですが、それがスポーツであるからこそ、勝者による支配も従属も引き起こすことのない、平和の祭典です。そもそもスポーツとは、力ある人間がその闘争心に任せて他者を傷つけたり、支配したりしないがために、一定のルールを決めて進化してきたものが多いと言われています。ですから、スポーツは人間が平和な文化社会を作る知恵のかたちと言えます。

十数年前の「ゆとり教育」では、教育の現場で競い合うのを避け、仲間であること、一緒であることが大切と

されました。ある小学校での徒競走の場面で、足の速い者、遅い者を共に手を繋がせて横並びでゴールさせたという事例を聞いたことがあります。そのような極端なケースはな

いまでも、子どもや青年たちの社会は、友達同士が仲良しであること、仲間であることが最重要課題であり、そこから排斥されるのを恐れ、延々とメールのやり取りをする子どもたちが増えていると言います。あるいは、陰湿な「いじめ」の背景にも、違いのある他者でありながら、「同質」だけが評価され続けていることがあるのかもしれません。これらの問題すべてを一括りにして、原因を決めつけてしまうわけにはいきませんが、その要因の一つに、健全な競い合いの経験が乏しかったことがあげられるのではないかと思います。つまり、自分と他者との関係性と距離感は、そういった経験の積み重ねを通して学ぶことになります。



だれもが安心して暮らせる社会を目指して

「障害者虐待防止法」が制定され、虐待に気づいた人の通報義務も定められています。当事者の家族、施設職員、会社の事業主などに虐待されている状況が見られたら、ひとりで抱え込むことをせずに専門の相談窓口相談することが、解決に至る近道です。

「障がい者虐待」とは…

- ①身体的虐待 体に傷や痛みを負わせるなどの暴行を加える。
正当な理由なく身体拘束する。
- ②性的虐待 無理やりわいせつなことをしたり、させたりする。
- ③心理的虐待 侮辱したり拒絶する言葉や態度で、精神的苦痛を与える。
- ④ネグレクト 食事、入浴、排せつなどの介助をせず、心身を衰弱させる。
また、本人が自らで生活や健康を損なう状態のまま放置すること（セルフネグレクト）。
- ⑤経済的虐待 本人の同意なしに財産や年金、賃金などを使うこと。

《障がい者虐待に関する問合せ先》

福岡市

障がい者基幹相談支援センター

9：00～17：00（土日祝を除く）

電話711-4496 FAX738-3203





憲法9条を考える

安倍内閣が行使を容認しようとしている「集団的自衛権」は、憲法9条により「行使はゆるされない」とするのが、これまでの私たちの国のあり方でした。しかし、安倍首相は国会で「我が国を取り巻く安全保障環境はますます厳しさを増し、脅威は容易に国境を越えてくる」と、集団的自衛権の行使を認める必要を訴えている。戦争できない国から、できる国へと大きく舵を切ろうとしているのです。

「集団的自衛権」とは、自分の国が攻撃されなくても、密接な関係にある他国が攻撃された場合に反撃する権利のことです。これらは、小国のいざこざに大国が軍事介入する口実として使われ、旧ソ連のアフガン侵攻やアメリカのベトナム戦争などは、まさに「集団的自衛権」を大義として行使されたものです。その戦争が、両国にとって如何に多くの犠牲と傷跡を残してきたのか、歴史が物語っています。

憲法9条は第1項で「日本国民は、正義と秩序を基調とする国際平和を誠実に希求し、国権

の発動たる戦争と、武力による威嚇又は武力の行使は、国際紛争を解決する手段としては、永久にこれを放棄する」と、軍事力によって争いは解決しないのであり、私たちは平和を心から願う国民であると掲げています。そしてその目的を達成するために、第2項「前項の目的を達するため、陸海空軍その他の戦力は、これを保持しない。国の交戦権は、これを認めない」と。

私たちの国は、自国を守るための必要最小限の力を持ち、他国との戦争をしないと、この平和憲法はきつぱりと語っています。それを小手先の解釈によって歪めてはならないと思います。



障がいのある子どもたちが通う肢体不自由の特別支援学校では、早々に「運動会」が消えてしましまい、「学習発表会」という形をとって年間行事に加えられました。様々な理由がそこにあると思いますが、運動会が無くなった一つの理由として、重い障がいのある子どもを競い合わせることに反感があったと言われています。アイドルグループが「ナンバーワンにならなくていい、もともと特別なオンリーワン」と歌っていたように、学習発表会でのその光景は、一人一人がスポットライトを浴びてキラキラと輝き、ナンバーワンでなく、オンリーワンであることを薦めているように感じます。それはそれで良いのですが、しかし、どこかでナンバーワンを目指すことを無くしてしまった残念さを思います。

確かに、重い障がいのある子どもたちに、運動やスポーツをさせることは難しいでしょう。しかし、ナンバーワンを目指すことは、スポーツに限ったことではありません。様々なジャンルでそれは可能とされる目標です。教育はそのような意味で、人間形成の重要な部分を担っています。つまりそれは「オンリーワンだからこそナンバーワンを目指す」という人間の知恵と本能が融合し、スポーツというジャンルを創り出したように、重い障が

いのある子どもたちにとっても、そういう経験と取り組みが必要だと思つのです。

重い障がいのある娘がまだ幼かった頃、一人のPT（理学療法士）から「この子は、何の経験もさせてもらっていない」と言われたことがあります。障がいが重いから、あれは無理、これも無理とあきらめないで、チャレンジしていくことへ扉を開いた言葉でした。

人生一度きりです。色んなことへ取り組み、経験を重ねて行きたいと思います。子どもたちと共に……



年齢も性別もそれぞれ

高橋 厚子

娘は脳性マヒ・関節拘縮症
特別支援学校中学部2年生

俳句かな？



お笑い芸人、又吉直樹さんの『カキフライが無いなら来なかった』（幻冬舎）という本を読みました。一行の短い文章が、クスツと笑えたり、切なかったり。ふたつ紹介します。

登山服の老夫婦に席を譲っても良いか迷う
オハヨウが言えなかったサヨナラは言おう

そして、自由律俳句というジャンルがあることを知りました。季語が無くて「五・七・五」でなくてもよい俳句で、百年前から詠まれているそうです。

住宅顕信すみなげしんという俳人の絵本のような句集を読みました。顕信は1987年に白血病のため25歳の若さで亡くなっています。一句紹介します。

点滴と白い月とがぶらさがっている夜

（「ずぶぬれて犬ころ」中央公論新社より）

又吉さんの真似をして私も書いてみました。温かい目でお読みいただけると幸いです。

インタールは吸入薬インタールは栄養剤
（10項目以上のお薬手帳、カタカナばかりで覚えられない）

吸引カテーテルを置いて朝日に背伸び

（娘が体調を崩して痰吸引が続いた長い夜、状況は同じでも朝が来るとうれしい）

眠る娘の呼吸を確かめる癖

（静か過ぎて心配になってしまつ）

吸入器を挟んで今日は笑顔ふたつ

（笑顔で吸入できる日はほっとする）

吸入させながら無言で文章を考えていると、娘に笑われます。私の頭の中にダメ出ししているのか、考え中の顔が変なのか…。笑われつつ、これから書いてみようと思います。



本の紹介



『つなかりの作法
同じでもなく違うでもなく』
綾屋紗枝月・熊谷晋一郎 著
（NHK出版生活人新書
定価700円＋税）

「つながり過ぎる」脳性まひの熊谷氏、「つながり難い」アスペルガー症候群の綾屋氏、その対照的な体験は、いわゆる専門家が分析し第三者として書かれたものではなく、まさに当事者の課題としてリアリティをもって迫ってくる。

違いをもつ人と人が繋がりあうとは、一体どういうことなのか、本書はその「作法」について提示してくれる。

